

公立学校と民間学習塾による
官民一体型学校
の創設について

目次

■ 設立の背景と目的	P3
■ 官民一体型学校の概要①	P4
■ 官民一体型学校の概要②	P5
■ 官民一体型学校の教育内容〔概要〕	P6
■ 官民一体型学校の教育内容①	P7
■ 官民一体型学校の教育内容②	P8
■ 官民一体型学校の教育内容③	P9
■ 官民一体型学校の教育内容④	P10
■ 官民一体型学校の教育内容⑤	P11
■ その他・新しい教育活動	P12
■ 官民一体型学校の運営について①	P13
■ 官民一体型学校の運営について②	P14
■ 今後のスケジュール	P15

■ 設立の背景と目的

1872年(明治5年)の学制公布以来、公立学校では、黒板と教科書を用いて教員が教え、生徒が教えられるという一方通行型の教育が主流として続いてきました。一方で、明治の草創期以降、自由や個性を重んじる私立学校も数多く設立されましたが、公立学校との接点は少なく、各学校が独自の教育を行ってきたところです。

しかしながら、これからの成熟社会を生き抜くためには、今まで以上に、自分の頭で考え、未来を切り拓いていく力が求められます。すなわち、教え教えられるという知識重視の伝統的な教育から、多様性を認め合い、お互いに学び合う教育、すなわち「メシが食える大人に育てる」教育への転換が今こそ求められています

また、そのためには、官と民の垣根を取り払い、官と民がお互いの強みを活かして教育の一層の充実を図ることが必要です。

そこで、佐賀県武雄市では、公立学校という「官」のシステムに、「民」のノウハウや活力を融合させた、全国初の「官民一体型」の学校を創設いたします。

■官民一体型学校の概要①

提携する民間学習塾について

○武雄市教育委員会(以下「本市教委」という。)は、受験勉強や進学指導を中心とした民間学習塾とは一線を画し、自立と魅力ある大人に育てることを教育ビジョンに掲げ、初等教育において数多くの実績を有する学習塾「**花まる学習会**」と連携する。

- ・「花まる学習会」 株式会社こうゆう 代表/高濱正伸氏
- ・住所/埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-19-10

○本市教委は、教育の基本方針として、「社会の進展に対応した教育の推進」を掲げており、「花まる学習会」の教育ビジョンとも一致するところである。

○本市教委と「花まる学習会」が共通のビジョンをもとに、教育活動においてシームレスに融合した「官民一体型」の学校(以下「官民一体校」という。)を目指し、公設公営でありながら「民」のノウハウや活力をこれまでにない規模で大胆に導入する。

○官民一体校は、小学校で実施する。

■官民一体型学校の概要②

提携企業の決定プロセスについて

○市長および本市教委が官民一体校の設立を構想し、平成24年度から提携先する民間学習塾の検討に入った。

○教育のビジョンをお互いに共有できることを優先して提携先を模索し、「花まる学習会」を武雄市に誘致する形で話し合いを進めた。

○「花まる学習会」が実践する、「数理的思考力」「国語力」を育成する授業や、「野外体験活動」は、その実績と共に保護者を中心に高い評価を受けている。これらの教育活動は、武雄市の学校教育の充実に資すると判断した。

○平成26年3月の臨時教育委員会において、提携先企業についての協議を行い、合意に至り決定した。

■官民一体型学校の教育内容〔概要〕

官民一体校の教育課程は現行の学習指導要領に準拠して行い、その上で「花まる学習会」の教育手法を大胆に取り入れ、それによって教育のあり方を変え、これからの生き抜く力を育む教育を行う。

- ① 花まる学習会の「主要カリキュラム」を日常的に実施
- ② 野外体験メソッドを生かした「青空教室」の実施
- ③ 「考える面白さ」を追求し、数理的思考力を鍛える
- ④ 学習の定着を図る独自の「指導方法」の導入
- ⑤ 信頼関係をつくる「学校マネジメント」の導入

■官民一体型学校の教育内容①

①花まる学習会の「主要カリキュラム」を日常的に実施

- モジュール時間を設定し、10～15分間、日常的に実施する。
- 暗唱やゲーム性などを積極的に取り入れ、集団指導のなかで「やる気」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を育む。
- 従来のカリキュラムでは育みにくい、「数理的思考力」、読書と作文を中心とした「国語力」を育成する。

※導入の時期：研究開発校にて

- 平成26年度夏～⇒研究開発校の教職員と「花まる学習会」との合同研修会を行い、導入内容と方法を検討
- 平成26年度秋～⇒研究開発的に開始
- 平成27年4月⇒実施校での本格実施

■官民一体型学校の教育内容②

②野外体験メソッドを生かした「青空教室」の実施

- 大自然の厳しさ、美しさ、多様さを、「花まる学習会」独自の野外体験のメソッドを導入し、学習する。
- 外遊びと中心とした校外での学習を通じて、「できなかったことをできるようになるまで努力を積み重ねる大切さ」を学ぶ。
- 年齢の違う子たちとの学びを重視し、異学年混合で実施する。
- 「総合的な学習」の時間を活用する。

※導入の時期：研究開発校にて

- 平成26年夏～⇒2か月に1回程度、研究開発的に開始
「花まる学習会」の講師を招いて実施
- 平成27年4月⇒実施校での本格実施

■官民一体型学校の教育内容③

③「考える面白さ」を追求し、数理的思考力を鍛える

○本格的な数理的思考問題を扱いながら、「考える面白さ」を追求した教育手法を導入。「働く力」と直結する、数理的思考力を強靱な形で育む。

○「花まる学習会」のオリジナル教材である「なぞペー」を映像化し、タブレット端末を活用して、ひとり一人が自分のペースで、時間と場所を選ばずに学べる環境を整える。

※導入の時期：研究開発校にて

- 平成26年度秋～⇒タブレット端末を活用し、
映像教材による個人学習の開始
- 平成27年4月⇒実施校での本格実施

■官民一体型学校の教育内容④

④学習の定着を図る独自の「指導方法」の導入

○語彙などの知識ノートの手作り方、できなかった問題をそのままにしない宿題ノートの手作り方など、「学習の手作り」を定着させる「花まる学習会」独自の学習指導方法を、積極的に導入する。

○授業における「あいさつ」、「場面展開」の手作りなど「花まる学習会」の教室での指導方法を、積極的に導入する。

※導入の時期：研究開発校にて

- 平成26年度**秋**～⇒研究開発校の教職員と「花まる学習会」との合同研修会を行い、導入内容や方法を検討
- 平成27年4月⇒実施校での本格実施

■官民一体型学校の教育内容⑤

⑤信頼関係をつくる「学校マネジメント」の導入

- 「花まる学習会」が実践している保護者会やイベントなど、児童、保護者、地域住民が満足する民間のマネジメント手法を導入する。
- 家庭学習が厳しい児童に対して、市内の他の学習塾とも協力、提携しながら、放課学習や土曜日学習などをサポートしていく。

※導入の時期：研究開発校にて

- 平成26年度夏～⇒「花まる学習会」スタイルでの保護者会の実施
- 平成26年度夏～⇒市内の学習塾と放課後学習、土曜日学習等での協力関係を構築していく。

■その他・新しい教育活動

外国語活動の充実

○外国人教員を常駐させ、英語教科の授業だけでなく、音楽、体育などの実技教科において英語を使い、体験的な理解を深めていく。

※導入の時期：

●平成26年度**秋**～

⇒教育内容①～⑤を実施する研究開発校とは別に、別の研究開発校を指定し、実施教科や指導内容について開発・実践する。

《参考》時間割の変化(イメージ)

一般的な既存の小学校の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝学習	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書
1	国語	算数	体育	算数	理科
2	算数	国語	算数	外国語	国語
3	体育	理科	社会	体育	音楽
4	社会	理科	国語	社会	算数
昼	昼	昼	昼	昼	昼
5	算数	社会	道徳	理科	総合
6	家庭科	委員会		家庭科	総合
学活					
放課後	放課後	放課後	放課後	放課後	放課後

新しい学校の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝学習	モジュール	モジュール	モジュール	モジュール	モジュール
1	国語	算数	体育	算数	理科
2	算数	国語	算数	外国語	国語
3	体育	理科	社会	体育	音楽
4	社会	理科	国語	社会	算数
昼	昼	昼	昼	昼	昼
5	なぞなぞ	社会	道徳	理科	青空
6	家庭科	委員会		家庭科	教室
学活					
放課後	放課後	放課後	放課後	放課後	放課後

-  「花まる学習会」の学習メソッドをそのまま取り入れたカリキュラム□
-  「花まる学習会」の学習指導法を生かしたカリキュラム□
-  「花まる学習会」の学習指導方法とマネジメントを生かしたカリキュラム□
-  「スマイル学習（ビデオ予習型授業／武雄式反転授業）」を実施する授業□

■官民一体型学校の運営について①

○官民一体校の小学校は新設せず、既存の小学校において実施する。

○通称として、「武雄市花まる学園 ○○小学校」とする。

○校長以下教職員は、通常の県費負担の教職員とし、FA制度等も活用する。

○藤原和博武雄市特別顧問(ただし無報酬)には、アドバイザーとして指導、助言をいただく。

○「花まる学習会」は、独自の教育活動のノウハウをご提供いただくとともに、市教委や研究開発校の教職員との合同研修会等を行い、協働的に研究開発に取り組む。また、本格実施後は、講師やアドバイザーとして参画していただく。

○官民一体校の教育内容やノウハウは、選ばれた学校だけで独占せず、市内の全小中学校(16校)においても、共有を図る。

○市内全校に共有できる、適切な組織や情報共有の仕組みについて、平成26年度中に検討する。

■官民一体型学校の運営について②

- 平成26年度の研究開発校を、武雄市立武内小学校とする。
- 「特区制度」の活用はしない。あくまでも、現行の学習指導要領に準拠して行う。ただし、平成27年度以降、「花まる学習会方式」の授業の実施頻度が増えていく場合には、「教育課程特例校」等の申請も検討する。
- 生徒は、実施校の学区への居住を条件に全国から募集し、定住の促進の効果を期待する。
- 「花まる学習会」と本市教委とで、10年を連携期間とする協定を締結する。

■今後のスケジュール

○平成26年度は、研究開発校における教育活動の中で、「花まる学習会」と提携・融合できる領域について研究開発を行う。

○官民一体校については、平成26年秋より、地域及び学校の主体性を尊重した「手あげ方式」により決定する。ただし、選定の校数、選定方法、選定期間については、研究開発校での実施状況を見ながら決定する。

○平成27年4月からの実施校での本格実施とする。